



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう

2020年
7月11日朝刊

記事を読んで、問いに答えなさい。解答欄が足りない場合は裏面に記すこと。



戦没者の遺影が並ぶ新たな遺品館の展示スペース
|| 静岡市葵区の県護国神社

戦後75年
しずおか
県護国神社（静岡市葵区）の境内に移転新築された遺品館の展示

新「遺品館」1階展示

県護国神社 高齢者利用しやすく

県護国神社（静岡市葵区）の境内に移転新築された遺品館は、社務所がある建物の2階に入っていたが、新館は高齢者らが来館しやすいように展示スペースを1階に設けた。新たに戦没者約1500人分の遺影も掲げた。遺品館の移転新築は同神社と県遺族会などの戦後70年記念事業の一環。鉄骨造りの一部2階建てで、延べ床面積は約340平方メートル。遺品館のほか、収蔵庫や同会事務局が入る。費用約1億円の多くを寄付で賄ったという。当初は2018年春の完成を計画していたが、寄付の募集期間延長などで着工を遅らせ

たため、19年秋になった。20年4月に開館したが、6月下旬まで展示作業が続いていた。展示スペースは旧館より小さくなり、展示物は家族に充てた戦没者の遺書や手紙を中心に、軍服や寄せ書きされた日章旗などを厳選した。壁には若くして命を落とした戦没者の遺影がずらりと並ぶ。

旧館当時は、階段をためらって見学を諦めるお年寄りもいたという。「（移転新築で展示スペースが）1階になったので多くの人が来ていただきたい」と権禰亘（ごんねぎ）の藤野高宏さん（31）。県遺族会の杉山英夫会長（62）は「展示を工夫しながら、戦没者をいつまでも忘れない場所になれば」と話す。（社会部・佐藤章弘）

① 居住自治体の戦後70年記念事業を検索し、戦争を語りつぐ意義を考察せよ。

[]

② 戦没者の遺影というかたちで、戦争を目に見える化した意義を考察せよ。

[]

③ 静岡県護国神社が物理的なバリアをフリーにして、高齢者の遺族に配慮したことに関連付けて、どのような「心のバリアフリー」の工夫があるか、具体策を論ぜよ。

[]

年 組 名前

作問者：NIEアドバイザー 実石克巳（静岡高校 教諭） （高校／国語）

<参考>①＝平和学、地方行政学に関する問題、②＝視覚認知学、脳科学、平和学に関する問題、③＝福祉学、行政学、防災学に関する問題